

平成31年2月12日

平成30年度  
日本リハビリテーション専門学校  
第2回学校関係者評価委員会議事録

- 1 日 時  
平成31年2月8日（金）16:00～17:00
- 2 場 所  
日本リハビリテーション専門学校第二校舎3階
- 3 メンバー  
委 員：高田、古川、山下、綿貫、三沢、近藤  
事務局：二瓶、工藤、近野、篠田、鈴木、深瀬、畠山
- 4 会議内容  
以下議題に添って進行

【議題】学校関係者評価委員会

- I. 過去6年（平成25年度～30年度）の学生募集状況について
- II. 各学科5年間（平成25年度～29年度）の退学者状況について
- III. 過去5年間（平成25年度～29年度）の国家試験合格率状況について

事務局 工藤

学校関係評価委員会を開始、まずは資料に添って説明。

<意見交換>

事務局工藤 退学者の問題はいかがですか。

高田委員 基本的には夜間部の退学率は低いですね。やはりモチベーションの問題かなと思う。入学時の選定の問題も大きいと感じている。

事務局近野 1つは1年次のモチベーションが続かなくなる中退で、2年次の学力が追いつかない問題で、その二つが大きいかなと思う。

事務局工藤 かなり成績が厳しい学生でも2～3回目で国家試験に合格することもありますね。

事務局篠田 今は3回受験してダメな人はもう受からない。忘れる量の方が多くて、覚える量が遅くなる為、段々間に合わなくなる。

- 事務局深瀬 やはり1年次の中退が増えている。基本的に入試であり落としていないのが実情である。問題があればその都度対応していくしかない。
- 事務局工藤 OT夜間部は長年退学率が一番低かったが、ここ4年位で厳しくなった。
- 事務局深瀬 入学者の平均年齢が低くなってきたことだけでなく、もっと複合的な問題だと思っている。
- 事務局鈴木 PT夜間部においても、適正に疑問を感じる学生が増えてきている。
- 古川委員 国語力の問題となると先生方もかなりご苦労されていると思う。
- 事務局篠田 国語力は急には伸ばせない科目なので問題の根が深いと感じている。
- 高田委員 大学において首席で卒業した者が算数が全然駄目だった。国語の成績は良かった。PT学科は理系と思っていたが文系なのかと思った。
- 古川委員 その教育に時間を割くのが先生方は大変ですね。
- 事務局篠田 低学力者しかいないのであればまだ良いのですが、レベルの高い者をそこに合わせるのはいかがでしょうかという問題もある。昔はそういう余裕があったのだが今はなかなか厳しいところがある。
- 事務局深瀬 どこのレベルの学生に合わせて授業をするのかという問題があるが、そのレベルのスプリットが酷いという側面がある。クラスの協調性が希薄になってきているのも大きな問題かもしれない。もちろん頑張っている学生もたくさんいるのだが。
- 事務局篠田 昔の学生は飲みにケーションがあったが、今はそういうことも中々難しい時代で減ってきている。人間関係を構築するのが難しい時代になっている。男性が弱くなっていることも感じる。リーダーシップが取れない。4年次のグループワークのグループを作るのにも大変な苦労がある。
- 高田委員 大学においても同様な状況がある。PT/OT以外の状況はいかがでしょうか。

事務局工藤            グループ校なんかはもっとレベルが落ちるかもしれない。しかしながら、退学率は悪くないようだ。

事務局二瓶            柔道整復や鍼灸は質や文化がちょっと違うかもしれない。

事務局工藤            大学での再実習はどのようにやっていますか。

高田委員              再実習は学内でオスキーを使って試験します。実習地にも学内で成績評価することは事前に告知している。実習の途中で帰ってきた学生は別のところで補充実習を行います。ただ、実習指導者に問題がある場合もあります。

事務局工藤            学内の成績は良いが実習で駄目になる学生は昔からおりますね。

本日は貴重なご意見、誠にありがとうございました。